○ 住民説明会における意見等（吾妻地区）

1. 日 時 令和元年6月29日（土）10時から11時25分まで
2. 場 所 吾妻区公会堂
3. 出席者 防衛省整備計画局、北関東防衛局ほか
木更津市企画部
4. 参加者 20名
5. 防衛省から説明資料に沿って説明後、以下のとおり質疑応答。
※【○主な質問等】【●防衛省の説明】【※木更津市の説明】

1. 木更津駐屯地への暫定配備期間について

- 暫定配備期間の具体的な期間を示してほしい。例えば、建設期間が何年など、目に見えるような説明をお願いしたい。
- 陸自オスプレイについては、昨年8月、佐賀県知事から受入れ表明をいただき、現在、佐賀県と有明海漁協において、佐賀空港建設時に締結された公害防止協定で確認されている、『県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えをもっていない』旨の考え方の取扱いについて協議がなされているところである。当該協議の進捗に応じ、施設整備に係る測量や基本検討等を行うことができれば、おおむね工期が判明すると思われるが、現時点で暫定配備期間をお示しすることは困難である。佐賀空港が恒久配備先であるという考えに一切の変更はない。

2. 木更津駐屯地を暫定配備先に選定する必要性について

- なぜ木更津駐屯地が暫定配備先として最適であると判断したのか。佐賀に近いところに配備するべきではないか。
- 説明資料に記載のとおり、①オスプレイの運用に必要な滑走路長約1,500mを有していること、②オスプレイ17機を配置できる広さを有していること、③既存配備機の運用への影響を最小限にとどめることができること、④既存の施設が利用可能であり、できるだけ早期に運用基盤として活用できること、これら4項目を満たす自衛隊の駐屯地・基地の中で水陸機動団の所在地である佐世保までの距離も考慮の上、木更津駐屯地が最適であると判断をした。
- オスプレイは垂直離着陸が可能であることから、滑走路は不要なのではないか。
- オスプレイは滑走路を使用した離着陸を想定している。他方、垂直離着陸も可能であるが、能力を最大限発揮する観点から、通常は滑走路を使用することが適当であり、配備先の条件として滑走路は必要である。

- 配備先が決まっていない中、オスプレイの導入を決定した理由は、災害派遣を念頭においていたからか。
- 目まぐるしく変化する安全保障環境に対応するため、オスプレイの導入を判断したものであり、島嶼防衛の強化を念頭においてのものである。災害派遣への対応も一つの考え方ではあるが、主な理由は、島嶼防衛力の強化である。

3. オスプレイの安全性について

- オスプレイを導入している国は、米国と日本のみであると聞いたことがあるが事実か。
- オスプレイを導入しているのはアメリカと日本のみであるが、装備品の必要性については、その国々がそれぞれ置かれている安全保障環境によって異なる。我が国がオスプレイの導入を決定したのは、島嶼防衛の必要性からである。
- 地域住民の懸念は機体の安全性であるが、最新のオスプレイの事故率は。オスプレイは世界中で事故を起こしており、だからこそ話題になっているのではないか。
- 事故率とは、10万飛行時間当たりで、被害総額が200万ドル以上、または、死亡事故に発展した等の事故の件数によって算出されるが、最新の事故率は平成30年9月時点で2.85であると承知している。さまざまな要件によって事故が発生することから、事故率のみをもって機体の安全性を評価することは困難である。オーストラリアで発生した事故などによって、佐賀県との調整に影響が生じたことは事実であるが、佐賀県知事にオスプレイの安全性を丁寧に説明させていただき、昨年8月、佐賀県知事から受入れ表明を頂いた。
- 空中給油訓練について、沖縄で発生した事故は、給油機側のミスなのかオスプレイ側のミスなのか。
- 空中給油訓練を困難な気象条件下で行ったことも事故の原因の1つの要素である。陸上自衛隊としても、段階的ではあるが、高度な技術を身につける必要があるし、給油側の操縦士との連携も行う必要があるが、その前にシミュレータを使用した訓練を行う等、段階的に練度を向上していく。

4. 生活環境への影響について

【訓練内容】

- オスプレイは水陸機動団との一体運用を考えているとのことであるが、木更津駐屯地に暫定配備を行った場合、その間の水陸機動団との訓練はどのように実施するのか。水陸機動団の一部を木更津駐屯地に編成することも想定

されるのか。

- 木更津駐屯地に限らず、習志野駐屯地等もあることから、水陸機動団を移駐させた方がよいのではないか。
- 水陸機動団とオスプレイとの連携した訓練は非常に重要であると認識しており、訓練のプログラムも今後考えていく。なお、南西諸島防衛も考慮した場合、水陸機動団は九州に配備しておくことが最適である。

5. その他

【今後の説明会】

- 今後、暫定配備や国の方針に変更が生じた場合、コンセンサスを得るために説明会を開く考えはあるのか。
- 木更津市と相談の上で検討する。

【定期機体整備】

- 米海兵隊MV-22オスプレイの定期機体整備について、1機目の整備に約2年を要したが、何が原因なのか。
- 所要の部品等の取得や、整備企業の整備要員の習熟、作業手順書等の作成に時間を要したもの。また、国内企業にとって初めて整備する機体であることから、整備企業がオスプレイの維持整備について、誠実に技術の向上に努め、慎重かつ確実な手順を踏んだ結果によるものである。2機目以降は作業時間が短縮されるものと考えている。

【木更津市への質問・意見】

- 基地があることのデメリットを市はどう考えているのか。例えばオスプレイ暫定配備により全国的に「基地のあるまち」というイメージが広まれば、企業誘致などにも影響がある。市の財政面では、防衛省の交付金を受けている側面もあるが、デメリットについて、木更津市はどう考えているのか。
- ※ メリット・デメリットを論じることは難しい。確実に言えることは、財政面において、基地があることによって、敷地面積に相当する固定資産税が入っていないということであり、それはデメリットであると言える。また、基地周辺地域の住民の皆様への、騒音、振動といったご負担が生じているという側面があると考えている。
- この説明会はどのような位置付けになるのか。例えば反対だったら考え直すのか。
- ※ 防衛省の要請に協力できるかどうかは現在回答を保留している。市民の皆様様の御意見を伺いながら、懸念事項に対して防衛省がどう答えるのか、または、どのように対応していくのかを踏まえて市は市議会や県と相談しながら、市として意思表示をしていきたいと考えている。また、防衛省は、住民の理解を得

られないうちは暫定配備を行わないと伺っている。